



特定非営利活動法人

ヒマラヤ保全協会

## 第 16 回 山岳エコロジースクール報告書

---

～ネパール・ヒマラヤのエコツアー～

テーマ「環境保全 -世界の屋根ヒマラヤを守れ！-」

# 目次

I.	はじめに.....	4
II.	山岳エコロジースクールで知りたいこと、やりたいこと.....	6
1.	ネパールの自然と世界遺産を満喫したい.....	6
2.	自然との関わり合い、民族について知りたい.....	6
3.	植林プログラムと援助について知りたい.....	6
4.	ネパールの生活を体験しながら交流したい.....	6
5.	ネパールの学校・教育について知りたい.....	7
6.	買い物がしたい.....	7
7.	自分を見つめ直したい.....	7
III.	フィールドワークの結果 -データベース-.....	8
1.	焼き畑の問題点.....	8
	牧草のための焼き畑の問題点 (S-1).....	8
2.	ヒマラヤ保全協会の活動.....	8
	きちんと管理された苗畑見学 (H-5).....	8
	ヒマラヤ保全協会の援助の成功例を見た (N-3).....	8
3.	宗教.....	9
	United Missions による布教とネパール人の改宗 (S-2).....	9
	日本人は皆仏教徒か? (H-9).....	9
4.	マオイストのつめあと.....	9
	マオイストが残したつめあと (S-3).....	9
5.	学校.....	10
	ナルチャン1日目、学校見学、英語の先生とネパールの教育について (N-5).....	10
	とまどい気味の学校見学 (H-6).....	10
	学年をおうごとに減少する生徒 (S-4).....	10
6.	ナルチャン村の生活文化.....	10
	現地の文化をとにかく体験する (N-1).....	10
	男女の役割分担はネパールも日本も同じ (H-10).....	11
	上村 vs 下村?! (H-7).....	11
	村の歓迎合戦 (S-7).....	11
	空間の機能ごとに持つ外扉 (S-6).....	11
	村の人とのミーティングで生の声がきけた (N-7).....	12
	ネパールの若者の憂い (S-12).....	12
	ナルチャン村の人々が日々の生活で重視すること (S-9).....	12
7.	ホームステイ.....	12
	少しナーバスな入村とホームステイ先の家族との出会い (H-4).....	12
	ホームステイ先の家族 (S-5).....	13
	多すぎる兄弟姉妹の謎とは (H-8).....	13
	ナルチャン2日目文化の違いを実感した (N-6).....	13

折り鶴をした (N-8) .....	13
自分の村に近づくとテンションが上がる ブミカから見るムラ社会の存在 (S-8) .....	14
<b>8. ツーリズム .....</b>	<b>14</b>
ネパール人も韓国人も日本人も興じるキャリンポー (H-1) .....	14
情報交換はトレッキング中の楽しみのひとつ (H-2) .....	14
タトパニ(温泉)でのひととき (H-3) .....	15
観光業は非常に大切である (N-2) .....	15
ナルチャン村におけるツーリズムへの期待 (S-10) .....	15
開発と環境保全について思ったこと (N-4) .....	15
ナルチャンムラの将来像～日本のように発展～ (S-11) .....	16
<b>9. フィールドワークのまとめ .....</b>	<b>16</b>
<b>IV. 参加者の感想 .....</b>	<b>17</b>
1. 本当にその人のためになり、私ができることを見つけていきたい .....	17
2. ネパールの人々は何を望んでいるのか .....	18
<b>V. 写真 .....</b>	<b>20</b>

## 1. はじめに



ブンヒルにて（背後はダウラギリ 8167m）

2009年2月23日から2009年3月8日にかけて第16回山岳エコロジースクール（ネパール・ヒマラヤのエコツアー）を開催しました。今回のテーマは前回と同様の「環境保全 -世界の屋根ヒマラヤを守れ!-」でした。日程は下の表の通りでした。

ネパールは面積は小さい国ですが、様々な要素が先鋭的に積みこまれているため、世界でもっとも多様性に富む地域となっています。地理学・地質学・人類学・生態学・気候学・地球物理学などのいわゆる野外科学の

メッカともなっており、世界でもっともよく調査・研究されている地域のひとつでもあります。私たちはこの点に注目し、この地域を「大自然の学校」として活用して山岳エコロジースクールを開催してきました。ここで言う「大自然」とは人間をふくんだ自然をさし、西洋文明流に自然と人間とを対峙させるのではなく、人間は自然の一部であるという思想にもとづいて活動をすすめています。

スクール前半のトレッキングでは、壮大な山々の景色に圧倒され言葉を失うほど感動しました。道中は、ヒマラヤ保全協会ネパール事務局長のナル=ババドゥール=ブンさんの解説があり、現地の様子を知ることができてとても有意義でした。その後ホームステイしたナルチャン村では実にたくさんの経験をすることができました。ネパール語ができない事で、楽しめたけれどもある限界を感じました。ネパール語をもっと勉強してからホームステイしたかった気がします。ホームステイ先の家族とうちとけるのは結構大変でしたし、もっと広い範囲の村人とコミュニケーションする機会があればよかったともおもいました。

しかし、言葉は通じなくても心は通じるようにも感じました。子供達はとてもかわいく、この子達の笑顔が大きくなっても消えないように心から願っています。

ヒマラヤ保全協会は、ナルチャン村で、植林・森林保全を中心とし、それにゴミ処理事業をくわえた環境保全プロジェクトをおこなっていました。かぎられた時間の中での見学で、また乾季だったため本格的な植樹などはできませんでしたが、そのプロジェクトは興味深かったです。

今後のひとつの課題としては、ナルチャン村の人々と私たちとがミーティングをおこなうとき、知っている情報量に差があると話し合いに限界が生じるので、事前に情報共有の仕組みをつくっておくとよいのではないかとおもいます。

ナルチャン村は、ヒマラヤ保全協会が2005年からプロジェクトをはじめた村であり、ナルチャン村の皆さんは私たちをとってもあたたかくむかえいれてくださり、またフィールドワークに全面的にご協力いただきました。ここに明記して村の皆さんに心から感謝の意を表します。

No.	日付	曜日	場所	プログラム	食事	宿泊先
1	2009.2.23	月	成田→バンコク	移動(フライト) → 自由行動(バンコク)	機	ホテル
2	2009.2.24	火	バンコク→カトマンドゥ	移動(フライト) → 自由行動(カトマンドゥ観光) → ミーティング(ヒマラヤの自然環境の概説)	○ 機	フジホテル
3	2009.2.25	水	カトマンドゥ→ポカラ	移動(バス) → ミーティング(ヒマラヤ保全協会のプロジェクト地の解説)	○	ブンヒル・ゲストハウス
4	2009.2.26	木	ポカラ→ウレリ	移動(タクシー) → ヒマラヤ・トレッキング	○ ○ ○	トレッキング・ロッジ
5	2009.2.27	金	ウレリ→ゴレパニ	ヒマラヤ・トレッキング	○ ○ ○	トレッキング・ロッジ
6	2009.2.28	土	ゴレパニ→タトパニ	景勝地ブンヒル(標高3193m)でヒマラヤ展望 → ヒマラヤ・トレッキング → 希望者は温泉へ	○ ○ ○	トレッキング・ロッジ
7	2009.3.1	日	タトパニ→ナルチャン	村での歓迎会 → ホームステイ先へ → 学校見学 → 苗畑見学 → 村人とともに植樹	○ ○ ○	ホームステイ
8	2009.3.2	月	ナルチャン	上村訪問(朝食)、学校見学 → アンナブルナ展望、“天空の畑”ウォーキング	○ ○ ○	ホームステイ
9	2009.3.3	火	ナルチャン	村人とミーティング → ホームステイ先で自由交流	○ ○ ○	ホームステイ
10	2009.3.4	水	ナルチャン→ポカラ	お別れ会 → トレッキング → 移動(ジープ+タクシー) → 自由行動	○ ○	ブンヒル・ゲストハウス
11	2009.3.5	木	ポカラ	まとめのミーティング → 自由行動(ポカラ観光)	○	ブンヒル・ゲストハウス
12	2009.3.6	金	ポカラ→カトマンドゥ	移動(バス) → 自由行動(カトマンドゥ観光)	○	フジホテル
13	2009.3.7	土	カトマンドゥ→バンコク	移動(フライト)	○ 機	機中泊
14	2009.3.8	日	成田	早朝帰国	機	-

## II. 山岳エコロジースクールで知りたいこと、やりたいこと

トレッキングの開始に先だって参加者全員がつどい、「山岳エコロジースクールで知りたいこと、やりたいこと」というテーマで、グループ・ディスカッションをおこない、その結果を以下のように類似項目別に整理した。

### 1. ネパールの自然と世界遺産を満喫したい

- ・ ヒマラヤの大自然を直に見てみたい。
- ・ ヒマラヤの雄大な自然を体験したい。
- ・ 8000m級の山々を自分の目で見てみたい。
- ・ カトマンドゥで世界遺産を見たい。

### 2. 自然との関わり合い、民族について知りたい

- ・ ネパールの人々と自然環境との関わり合いを見てみたい
- ・ 現地の人々が環境の変化(温暖化)についてどう思っているのか知りたい。
- ・ ネパールの中で様々な民族の暮らしを見て、比較してみたい。
- ・ 高度によってどれだけ生活が変わるのか見てみたい。
- ・ 現在は住みわけによる共存ではなくて、交流が始まっているのか知りたい。
- ・ 民族性の違いを実際に感じてみたい。

### 3. 植林プログラムと援助について知りたい

- ・ 今までのプログラムの成果を見てみたい。
- ・ 植林をしている地域がどのような状態になるか知りたい。
- ・ 援助というものが実際どのように行なわれているのか見てみたい。
- ・ ネパールの人が援助についてどう思っているのか知りたい。
- ・ 植林がどのように行なわれているかを知りたい。
- ・ ネパールの人々は植林に対してどのような考えを持っているか知りたい。

### 4. ネパールの生活を体験しながら交流したい

- ・ ネパールの人々と交流したい。
- ・ ネパールの人が日本のことをどの程度知っているのか見てみたい。
- ・ ネパール語できるだけ覚える。
- ・ ネパールの人々の日々の暮らしを体験したい。
- ・ ネパールの生活様式（トイレとか）見てみたい。
- ・ ネパールの都市と農村の暮らしの違いをのぞいてみたい。
- ・ ネパールの遊びを知りたい。
- ・ ネパールの食生活を体験したい。
- ・ ネパールの日々の自給自足の生活を体験してみたい。

- ・ ネパールの農村が抱えている問題とは何かを知りたい。
- ・ 外国のヒトやモノが現地の人にどのような影響を与えているのか知りたい。
- ・ ネパール社会での男女の平等は？
- ・ 人口の都市への流入について現金をどのようにして扱っているのか知りたい。
- ・ ネパールの人々は何を楽しみ・喜びとして生活しているのかを知りたい。

## 5. ネパールの学校・教育について知りたい

- ・ ネパールの子供たちは1日どのように過ごしているのか知りたい。
- ・ ネパールの学校はどのような所なのか知りたい。
- ・ ネパールの教育について、教育制度について知りたい。
- ・ ネパールの学校の種類または制度について知りたい。

## 6. 買い物がしたい

- ・ ネパールで布とか帽子とか柄のあるものが欲しい。

## 7. 自分を見つめ直したい

- ・ 今の自分の暮らしを見つめ直したい。

### III. フィールドワークの結果 -データベース-

グループ・ディスカッションの結果をふまえて、参加者各自が、トレッキング中そして村でのホームステイ中にフィールドワークをおこない、見たり聞いたりしたことをデータカードに記載した。それらの結果を探検ネットという方法をつかって類似項目別に以下のように整理した。

#### 1. 焼き畑の問題点

##### 牧草のための焼き畑の問題点（S-1）

ウレリへのトレッキングの途中で、草地を焼いているのを見た。なぜ焼いているのかをナル・バハドゥール氏に尋ねたところ、草を焼くと、その焼けた草が肥料になって、栄養のある草がはえてくるからだという。そして、その栄養のある草は家畜が食べるそうだ。ただし、草を焼くことによって新しく生えてきている芽も焼いてしまうことが問題だとナル・バハドゥール氏は言った。

(Date:2009/02/26 Source:ナル・バハドゥール氏 Place:ウレリへのトレッキングの途中 Recorder: S.M.)

#### 2. ヒマラヤ保全協会の活動

##### きちんと管理された苗畑見学（H-5）

###### ・苗の育て方

小さい種はポットに、大きい種は地植えしてその後、ポットに移す。

日中はムシロで直射日光を避け、夜はムシロを外す。

###### ・苗の販売

果樹は 10Rs、はんの木や松は 3Rs ほどで販売されている。

###### ・植樹

6 月から 9 月にかけて、生活を豊かにするために、村人たちが行う。

成木は、家や家具などのための材木、家畜のえさ、フルーツ、薪として使用される。

###### ・今後

2010 年は、2 か村で 7 万本を目指す。

(Date: 2009.3.1 Place: ナルチャン村>苗畑 Source: T さん、苗畑管理人 Recorder: H.K.)



ミカンの苗木がそだつ

##### ヒマラヤ保全協会の援助の成功例を見た（N-3）

ゴレパニからタトパニへの途中のチトレ村に寄ったが、女の人が T さんに話しかけてきて感謝の意を述べていた。NGO の良さは、こういった現地のニーズに合わせて、細かい所まで素早く援助を行なえて、感謝の意も伝えられるくらいに関係になれることだと思った。ODA より NGO の良さというのはこういう点にあると思った。女の人笑顔がとても印象的でした。薪を運ぶロープウェイも現在使われているというのを聞いて、作るだけではなく、その後のケアの方法もしっかり伝わっているのかと



感じました。シーカ村にはおじいさんがいて、写真をとった。ヒマラヤ保全協会が17年間現地のニーズに応え、コンパクトに早く、要求に答え、新しい提案を行い、それが成功しているからこそ、ここまで感謝しているのだと思った。

(date 2009/2/28 source 女の人 place チトレ村 recorder N.M.)

### 3. 宗教

#### United Missions による布教とネパール人の改宗 (S-2)

ゴレパニへのトレッキングの途中に他の建築物にまぎれて教会があった。つくりは他の建物と同じだが、入り口らしきところには十字架のマークがあった。

ナル・バハドゥール氏によると、それはUnited Missionsの教会だという。その地域には、キリスト教徒は多くないそうだが、ヒンドゥー教からキリスト教へのconvert(改宗)をすすめているそうだ。United Missionsは援助をつかって、改宗をすすめているという。

援助を利用して改宗させることには、違和感を感じる。しかし、逆に考えれば、自らの文化を捨ててまでも、援助を必要とする、切実な現状があるのかもしれない。

(Date:2009/02/27 Source:ナル・バハドゥール氏 Place:ゴレパニへのトレッキングの途中 Recorder: S.M.)

#### 日本人は皆仏教徒か? (H-9)

ヒマール先生とサルバハドゥールさんに同じ質問を受けた。日本人の多くは無神論者だと答えると、とても驚いていた。しかしネパールも若い人の中に無神論者が増えてきたと首をすくめた。

私の父は、毎朝、お経を唱えている(母の仏壇に向かってだが、伝わらないと思ったので省略)と言うと、今度は首を縦に大きく振って、ヒンドゥー教も仏教も「same, same」とのこと。ホームステイ先はヒンドゥー教だか、確かに、毎朝、神棚(のようなところ)と部屋の入り口を掃除し、お花を生け、お香を焚き、お祈りしている姿は、私の父と重なった。毎朝、私も見よう見真似で手を合わせた。

(Date: 2009.3.2 Place: ナルチャン村 Source: サルバハドゥールさん(チャンドラさんの父)、ヒマール先生 Recorder: H.K.)

### 4. マオイストのつめあと

#### マオイストが残したつめあと (S-3)

タトパニへのトレッキングの途中の電信柱には、マオイストのマークが多く残されていた。また、ある建物の壁面にはマオイストのスローガンが大きく残されていた。(内容はよく覚えていないが、「革命なくして真の平和はない」という内容であった。)さらに、トレッキングの途中には、壊れた家屋があった。ナル・バハドゥール氏によると、その家は学校の先生のものであったが、その先生の息子がマオイストの反対政党にいたために、家がマオイストに破壊されたのだという。

(Date:2009/02/28 Source:ナル・バハドゥール氏 Place:タトパニへのトレッキングの途中 Recorder: S.M.)

## 5. 学校

### ナルチャン 1 日目、学校見学、英語の先生とネパールの教育について (N-5)

ホームステイ先で歓迎を受けた。ブミカちゃんとお母さんとお父さんとイショール君が家族である。ブミカが学校へつれていってくれた。クラスは9のクラスでまず暗さにおどろいた。アーリア系の子供がガキ大将のようではあった。アーリア系の子供は体が大きく、背も高かった。校長先生が地理の授業をしていた。勉強は楽しい?と女の子3人くらいに聞いたら3人とも楽しいといていた。素直でとても可愛らしい印象でした。みんな一人一人自己紹介をしてくれて歓迎してくれた。

子供の学生、幼稚園から高校1年までを一括しているような学校であった。

職員室に案内され、英語の先生から熱い議論を持ちかけられました。教育の問題はさまざまな問題が重なって起きていることであって、教室の現場いくらやっても改善できないと言っていた。土曜日出かせぎにいったり親が教育をうけていないから教育の大切さをわかっていないということだった。

(date 2009/3/2 source 英語の先生 place 学校 recorder N.M.)

### とまどい気味の学校見学 (H-6)

ミーラさんに学校を案内してもらおう。現在、学校は9年生までだが、来年は10年生を新設する予定とのこと。授業中にも関わらず教室の扉を開け、挨拶するので、生徒たちの気を散らせてしまい悪いと思う。生徒たちは恥ずかしそうに挨拶を返してくれ、私たちに興味津々のようだ。

先生方は、地元の方もいれば、派遣されて赴任される方もいるとのこと。先生のひとり、ヒマール先生に学校の改善点を求められるが、一回りしただけでは、問題点を挙げることは難しいが、教室の暗さが気になった旨を伝えた。後で、停電の可能性もあることを思い出し、悪かったかな、と思った。

教材は、先生方が吟味して選んでいるらしい。ヒマール先生は、学校の現状に危機感を持ち、改善策を見つけようとしているようで、熱心に私たちに意見を求めてきたり、説明をしてくれたりしてくれた。

(Date: 2009.3.1 Place: ナルチャン村>学校 Source: ミーラさん、ヒマール先生 Recorder: H.K.)

### 学年をおうごとに減少する生徒 (S-4)

ナルチャン村の学校に行ったとき、職員室で、英語の先生と話をした。その先生によると、教育の質を高めようとしても他の要因が邪魔をするのだという。経済的に貧しい子どもは、学校の時間外には家事労働をしなくてはならないし、学校のない土曜日には、働きに出ている子どももいる。また、教育を受けていない親は、教育の重要性を理解しておらず、子どもが教育を重要だと思っても、学校に通わせないのだ。そのため、学年をおうごとに生徒は減少していく。この問題は教育だけの問題ではなく、他の様々な要因が関係しているのだ。

(Date:2009/03/01 Source:英語の先生 Place:学校 Recorder: S.M.)

## 6. ナルチャン村の生活文化

### 現地の文化をとにかく体験する (N-1)

トレッキングが始まって、前回の人が感じた事は、自分もびっくりする点が多かった。

自分はとにかく文化を体験して見ようと思い、ヒンドゥー式でトイレを試してみた。日本のトイレ

は汚い物には一切触れないで手間で洗えるが、ヒンドゥー式はそうはいかなかった。Tさんがこの人は毎日風呂に入るわけではないから、水で洗わない方が不潔という指摘がぴったりあてはまっていると思う。しかしバケツが2つあるのが不明であった。

食事に関しては、マガル族の村でチベタンブレッドが出るなど食文化では客のニーズに応え、文化が入りまじっている。

(date 2009/2/26 place ウレリの宿 recorder N.M.)

### 男女の役割分担はネパールも日本も同じ (H-10)

村民の方々とのミーティングをする機会があった。

ネパールでも、男女の分担は、特に明確には分かれていないとのこと。ただ、女性を作ってくれたご飯は美味しいと一人の男性が言ったとき、日本の会社の男性陣(特に年配の方)からよく聞かれる、「女性に煎れてもらったお茶は美味しい」という意見に酷似していて笑ってしまった。分担されていなくても、すみ分けはされているようだ。

但し、ネパールでは、農作業は男性の仕事で、日本とは異なるようだ。

(Date: 2009.3.3 Place: ナルチャン村>広場 Source: 村人の男性 Recorder: H.K.)

### 上村 vs 下村?! (H-7)

ゴレパニ同様、上村と下村があるナルチャン村。

上村は、元からあったが、生活がより便利な下村が後から出来る。学校も以前は上村にあったとのこと。

上と下では、ちょっとした対抗意識のようなものがあるらしく、上村を訪れた際の熱心な歓迎の様子にも表れていたようだ。

お礼に前夜、教わったネパールのフォークソング「レッスアンフィリリ」と「ジャパン、トキヨ(題名不明)」を振りつきで披露した。

(Date: 2009.3.2 Place: ナルチャン村>上村 Source: Tさん Recorder: H.K.)

### 村の歓迎合戦 (S-7)

ナルチャン村の上にあるレッグ村へ行った。ナルチャン村での歓迎同様レッグ村でも盛大な歓迎を受けた。はじめに、チャと豆料理とクッキーをだされた。その後ダルバートとロキシーもだされた。食事をしていると村の人たちが自然に集まってきた。レッグ村の人たちは、ナルチャン村とどちらのほうがいいかなどと聞いてきて、ナルチャン村との対抗意識をむきだしにしていた。また、丘の先端に行くと、レッグ村に帰ってきて、手厚くおもてなしをして、必死に村にとどめようとしているのを感じた。

(Date:2009/03/02 Place: レッグ村 Recorder: S.M.)

### 空間の機能ごとに持つ外扉 (S-6)

ナルチャン村の家は何軒かうかがったが、思ったことは、部屋の機能ごとに外扉があるということだ。例えば、キッチンにはキッチンの外扉があって、寝室には寝室の外扉がある。またトイレは離れた場所にあるので、トイレにもトイレの外扉がある。そのため、日本の家のように玄関という1つの外扉があって、そこから中で機能が分かれていくのではなく、機能ごとに外扉を持ち、1つの言えに多くの外扉が存在するのである。そして、その外扉全てに南京錠がかけられている。

(Date:2009/03/01 Place: ホームステイ先の家 Recorder: S.M.)

## 村の人とのミーティングで生の声がきけた (N-7)

村の人とのミーティングをした。日頃の幸せは歌をうたったりおどったりといていた。ツーリズムを重視するとの考え方もきけたが、村の人は海外についてはほとんど知らないようであった。木がうえられるのはうれしいといていた。本当にそうだと思うか、村の人には他の選択肢は頭にうかんでいるのだろうか。それを代わりに考え、提案実行するのがTさんの役割であると感じた。村の年配の方は教育を受けていない。自分が思っていた想像より村の人は何も知らなかった。そこで活動しているTさんは本当にすごいと思う。外国人がたくさん来る事はいい事であると思っているそうだが、それと同時に子供達に西洋へのあこがれが強まって村から出て行く人も増えると思う。またどんどん開発を進めようという人も出てくると思う。

このNGOは森林保全の切り口から村を支援しているので、そこでいずれ村人との意見の違いが出てくると思います。ツーリズムの発展によって西洋からの文化が流入し、子供が離れていく。開発と森林保全のバランス、かじとりはこれから大変になっていくのではないと感じました。

(date 2009/3/4 place ミーティング recorder N.M.)

## ネパールの若者の憂い (S-12)

ホームステイ最後の夜に、ホームステイ先の家で、ミーラとその友人の女の子のシーマ(20歳、学生(9年生))と、ブーマ(現在ポカラに住んでいる)と話をした。その女の子たちが言うには、ネパールはよくなくて、日本がいいと言っていて、ネパールへの失望感と日本への憧れを抱いているのを感じた。また、彼女たちはディスコが好きだと言っていた。また、おしゃれにも気を配っている。ネパールの若者も、日本の若者と考えていることには大差がなく、それゆえ、ネパールの現状に憂いを抱いているようだ。

(Date:2009/03/03 Source:ミーラとその友人 Place:ホームステイ先の家 Recorder: S.M.)

## ナルチャン村の人々が日々の生活で重視すること (S-9)

村人とのミーティングの中で、ナルチャン村の人々が日々の生活で重視することについて質問した。ある男性は、ごみ処理や森林保全などのプロジェクトや、その他にもツーリズムを重視していると答えた。また、別の男性は、日々の農作業を重視していると答えた。

後者の意見は非常に納得できる。人々を観察していても、農作業をしている人々をよく見かけるし、夕方になると、子どもたちも一緒に農作業をしているのを見かける。それに対して、前者はどれほど重視しているかを日常生活の観察からは分からなかった。

(Date:2009/03/03 Source:村人 Place:ミーティング Recorder: S.M.)

## 7. ホームステイ

### 少しナーバスな入村とホームステイ先の家族との出会い (H-4)

ナルチャン村に到着し、歓迎会場の村の広場へ。村人たちが好奇心でこちらを見ていて、目のやり場に困る。いきなりネパール語で挨拶することになり準備をしておらず、イヤな汗が出る。

その後、ホームステイ先へ案内されたが誰が家人か分からず、また全く英語が通じないようで不安が一気に増す。皆忙しそうだったし、時間を持て余したくなかったので、ジェスチャーで「お皿洗いを手伝いますか」とすると、「大丈夫」みたいなジェスチャーが返ってきたので、「洗濯してもいいですか」と聞いてみる。ひと通り終えて絞っていると洗濯機の脱水機を回してくれて屋上に干させても

らう。洗濯機があるなんて、ちょっとびっくり。

(Date: 2009.3.1 Place: ナルチャン村>ホームステイ先 Source: None Recorder: H.K.)

### ホームステイ先の家族 (S-5)

ホームステイ先で主に相手をしてくれたのはミーラ(19歳)という女の子である。ミーラに家族構成を聞いてみたところ、父、母、姉、兄、妹、ミーラの娘(10ヶ月)がいるそうだ。ちなみに、家族構成について2回ほど聞いてみたが、ミーラの夫は出てこなかった。

ホームステイ先はよく人が誰もいないことがあったが、ミーラに聞いてみたところ、近くに住んでいる祖父の家に行っているのだという。

(Date:2009/03/01 Source:ミーラ Place:ホームステイ先の家 Recorder: S.M.)

### 多すぎる兄弟姉妹の謎とは (H-8)

ホームステイ先は、アマ(お母さんの意で名前は不明)とチャンドラさん(28歳・女性)が住んでいる。チャンドラさんの夫はサウジアラビアに仕事に行っているので不在。

家には昼夜問わず、色々な人が来て、その度に「お母さん」「お父さん」「妹」などと紹介してくれるが、何だか家族が多すぎる。しかも同居はしていない。

そこへ少し英語が話せるチャンドラさんのお父さん、サルバハドゥール氏が登場。彼は56歳で5年生までしか学校に行かなかったが、9年間、ゴルフ場(国名/地名は聞き取れず)で働き、英語を覚えそうだ。高血圧(もしくは脳の病気)のため、ポカラの病院で1ヶ月入院し、お金がなくなってしまったそうだ。その彼に聞くところによると、「母」は「義理の母」だったり、「妹」は「弟の嫁」だったり「妹の子供」だったり。「従姉妹」や「姪」「甥」などはネパール語にはないらしい。私の乏しいネパール語では家族構成を把握するのは、かなり難しいので、途中から色々聞くのを諦め、ネパールの表現の仕方、その関係を感じた。

(Date: 2009.3.2 Place: ナルチャン村>ホームステイ先 Source: チャンドラさん、サルバハドゥールさん Recorder: H.K.)

### ナルチャン2日目文化の違いを実感した (N-6)

レック村へ行った時、一緒に行ったブミカが教科書をベロベロなめたり、花を食べたり、竹で耳をそうじしたり、ウンコをけっとぼしたり、日本では絶対見ない行動を連発していた。

上の村の人達は自然に人が集まってくるといったかじりでアットホームな雰囲気だった。洗濯については女の人の仕事らしい。友達が来てみんなで一緒に洗濯をした。洗濯の後、竹の葉で舟を作って川に流したら、モマトという姉妹の女の子が、かまで竹の皮を切り、すごい舟を作って、風車も作ってくれた。トランプも日本のゲームはネパールにもあるようで盛り上がった。ネパールの子はたくましく、自分が教えた遊びも既に覚えて楽しんでた。

夜にはトイレの鍵がなくなり、父親が探し回っていた。トイレに鍵をするのはトイレを持つ家が金持ちということの証であることに気がついた。

(date 2009/3/3 place レック村 recorder N.M.)

### 折り鶴をした (N-8)

校長先生とロキシーを飲んでいると、自分が来ているから子供達は集められたらしく、酔っている校長先生の横で退屈そうにすわっていた。そこで、折り鶴を教えたが、みんな家の手伝いとかがあったらしく、親切の押しつけになってしまったかもしれない。

(Date 2009.3.4 Place ブミカの家、Recorder N.M.)

### 自分の村に近づくとテンションが上がる -ブミカから見るムラ社会の存在- (S-8)

レッジ村で手厚いもてなしを受けて、ナルチャン村に帰っているときのことである。レッジ村についてきたナルチャン村の女の子のブミカは、レッジ村にいるときは必死に自分の村に帰らせようとしてきた。そして、ナルチャン村に近づくにつれて、彼女は歌をうたいだしたり、笑いだしたりして、テンションが徐々に上がってきているようであった。

やはり、自分の所属する共同体に帰るという安心感は大きいのだと思う。ここに、ムラ社会の存在の大きさを感じた。

(Date:2009/03/02 Place: レッジ村から帰る途中 Recorder: S.M.)

## 8. ツーリズム

### ネパール人も韓国人も日本人も興じるキャリンボー (H-1)

ウレリのロッジで出会った韓国人トレッカーからゲームに誘われた。カトマンズからポカラに来る道中、いたるところで男性たちが群がっていた盤面。「何をしているのだろうか？」と気になっていたがネパールで人気のゲームらしい。韓国人たちもルールをきちんと覚えていなかったものの即席ルールで盛り上がる。

夕食後、ナル・バハドゥール氏より、本場のルールを教わる。ゲームは2人1組の2チームで行い、オセロのような白と黒のコマを指ではじき4隅の穴に入れ、自分のチームの色のコマを早くなくし、最後の赤いコマを先に入れば、勝ちとなる。なかなか思う場所にコマをはじけなかったり、高度なテクニックと頭脳を駆使したりと、シンプルながら奥が深く人が集まるのが分かる。結局トレッキング初日の疲れをモノともせず、2ゲーム行った。

このゲーム、ビリヤードの原型でもあるらしい。

(Date: 2009.2.26 Place: ウレリ Source: 韓国人トレッカー Recorder: H.K.)

### 情報交換はトレッキング中の楽しみのひとつ (H-2)

ウレリを登ったすぐ後の上り坂が、結構、急で息がきれたが、慣れるにつれ、呼吸も落ち着く。森の中を進むため、暑過ぎず気分よく歩くことができた。

ランチを摂るために立ち寄ったナンゲタンティのレストランでは、日本人トレッカーの何組かが休憩していた。たまたま隣り合わせたカップルの会話が聞き覚えのある言語だったので声をかけると、やはりスカンジナビア（ノルウェー）から来たとのこと。インドを旅行した後、ネパールに入り、またインドに戻った後、バングラディッシュなど東南アジアを巡るらしい。トレッキングはアンナプルナB.C.まで行くそう。長い休暇をとっても社会に戻りやすい北欧の教育制度や社会環境を思い出し、懐かしく、また少し羨ましく思った。

私がエベレスト街道のトレッキングに行くことを話すと、彼らのガイドがいくつかアドバイスをしてくれた。こういった小さなことがトレッキングの楽しみのひとつだ。

(Date: 2009.2.27 Place: ナンゲタンティ Source: ノルウェー人トレッカーとガイド Recorder: H.K.)

### タトパニ(温泉)でのひととき (H-3)

下りとはいえ長い道のりを経てタトパニへ到着。ロッジで水着に着替えいざ温泉へ。入湯料は 30Rs。日本同様、湯に入る前に体を洗うのが流儀らしい。石積みの浴槽は 2 つあったが、この日は 1 つのみに湯が張られていた。

3 人で入っていると流暢な日本語で男性が話しかけてきた。何でも大学卒業後 14 年間、日本に住み 4 年前に帰国したとのこと。その彼曰く、ここの入湯料の 1 部は地元の学校に寄付されている。また浴槽の湯は、日替わりで張られ、清掃もされている。

底のヌルヌル感は泉質によるものだろうか?! キレイとは感じられず、ロッジでシャワーを浴びたが、またひとつ旅の思い出が増えた。

(Date: 2009.2.28 Place: タトパニ Source: タトパニ出身ポカラ在住のネパール人男性 Recorder: H.K.)

### 観光業は非常に大切である (N-2)

ポーターのビンさんとノンさんと宿についてから少し話した。ビンさんには 3 人の息子がいてビレンティの学校に通っていて生活費がとてかかるから大変とおっしゃっていた。ネパールは国が機能していないそうなので強いことはいえないけど、政府が安定したらポーター協会をつくって日本語のサイトなども作り、もっと行きやすい環境にすれば観光客も増えると思う。ビンさんは英語もしゃべれる力もあるポーターさんなので、協会で一括して紹介すれば、ガイド・ポーターの質もより上がるのではないだろうか。そしてロッジについても、日本の地元の観光協会のように村を超えた単位で会合をしたりして、ゴミ処理などの広域的対応が求められる事を話し合えば、ゴミもすくなくなるのではないか? トレッキングルートで一つの組合など。

(date 2009/2/27 source ビンさん place ゴレパニの宿 recorder N.M.)

### ナルチャン村におけるツーリズムへの期待 (S-10)

村人とのミーティングの際に、最後に、ナルチャン村を今後どうしたいか、村の将来像について質問した。ある村人は日本のように発展することだと答えた。質問全体を通して感じたことは村の発展への意欲が強いことだ。そのために、ツーリズムへ期待している。そのため、外の間人が、環境保全や景観保全、文化保全などを訴えようとも、村の発展につながらなければ村の人々は反応しないだろうと考えた。

(Date:2009/03/03 Source:村人 Place:ミーティング Recorder: S.M.)

### 開発と環境保全について思ったこと (N-4)

ナルチャン村へ行く途中、水力発電所を作る予定地を見た。きれいな自然が残っていたが、全て壊され、コンクリートになるようだ。とても残念だが、ネパールの人が経済発展するには必要な施設であると思う。現在の日本や欧米の技術を使えば、ある程度景観に配慮した水力発電所も作れるのではないだろうか。開発と環境保全をどちらか極度に求める事は現地の人々に負荷を与えてしまう。バランスを取りながら必要である。現地の人々はバランスといっても難しいと思う。NGO、ODA、先進国の役割は、自分の国の経験を生かして、ネパールが環境に配慮した開発を行なえるように見守り、手助けすることではないでしょうか?

制度や観光客を迎える体制がしっかりととのっていないのに観光業に頼った経済は不安定になってしまう。だから現在の状況があるわけなので、ネパールにとって何が大切なのかを政府がもう少し考

えて行動にうつれば良いと思う。

(date 2009/3/1 source ナル・バハドゥールさん place タトパニ recorder N.M.)

### ナルチャンムラの将来像 ～日本のように発展～ (S-11)

村人とのミーティングの際に、最後に、ナルチャン村を今後どうしたいか、村の将来像について質問した。ある村人は日本のように発展することだと答えた。質問全体を通して感じたことは村の発展への意欲が強いことだ。そのために、ツーリズムへ期待している。そのため、外の間人が、環境保全や景観保全、文化保全などを訴えようとも、村の発展につながらなければ村の人々は反応しないだろうと考えた。

(Date:2009/03/03 Source:村人 Place:ミーティング Recorder: S.M.)

## 9. フィールドワークのまとめ

フィールドワークは、前半のヒマラヤ・トレッキングと後半のナルチャン村ホームステイの二つの場面においておこなわれた。

ヒマラヤ・トレッキングでは、大きな高度差を経験しながら、亜熱帯から高山帯・氷雪帯までのヒマラヤの自然環境の多様性を実体験することができた。ブンヒルでの眺望はすばらしかった。またここはトレッキングのメッカであり、世界中からトレッカーがあつまってきているため、東洋人やヨーロッパ人など様々な国々の人々と出会い、交流することができた。トレッキング・ロッジでは韓国人とたのしく遊ぶことができた。

ナルチャン村では正に異文化体験をすることになった。言葉も習慣もちがう中でコミュニケーションしていくことは大変むずかしいことである。しかし、これは実際にこの地に来てホームステイをして初めてわかることであり、やはり現場に来なければわからない。

また、グローバル化や環境破壊にさらされて、この村の将来はいったいどのようになるのだろうか。子供たちの笑顔をみていると将来を憂うとともに、なんとかこの素朴な空間をのこせないかとおもう。

私たち日本人に何ができるのか。ヒマラヤ保全協会はその一例をしめしているが、今回のかぎられた時間だけではその解答を得ることはできない。山岳エコロジースクールでの貴重な体験をきっかけにして、これからすすむべき道筋をしっかりかんがえていきたい。



## IV. 参加者の感想

### 1. 本当にその人のためになり、私ができることを見つけていきたい。

H. K.



世界一高い山がどのくらい高いのかを自分の目で確かめたいという長年の夢をかなえようと、エベレスト街道でのトレッキングを計画中、夢のためだけではなく、人のために何かできないかと、ふと思いついたのが、今回のスタディツアーに参加するきっかけとなりました。

ネパールは、私にとって全く未知の世界。出発前に予備知識を少しでも蓄えようと、仕事は多忙を極めていましたが、図書館で借りたネパールについてのエッセイ数冊と地球の

歩き方を何とか読みとおしました。ホームステイ先でコミュニケーションをとるためにと勧められた「旅の指差し会話帳」は、書店をだいぶ探し回ったが見つからず、ネットでも入荷待ち／在庫切れとのこと。出発前の2回の勉強会でも本人の勉強不足で不安を残しながら、出発の日を迎えました。

カトマンズの空港に下り立った瞬間から、衝撃の連続。「凄まじい」のひとと言につきる人々、町の様子。頼んでもいないのに荷物を運んだからとお金を要求したり、クラクションは存在を知らせるためなのか鳴らしっぱなしだったり、牛、車、バイク、自転車がぶつかりもせずブンブン飛ばしていたり。排気ガスには閉口しましたが、タクシー代も買い物も金額は交渉性。何だか楽しいところに来たようです。

ポカラから数日のトレッキングを経て、ナルチャン村へ。途中、これまでIHCがサポートしてきた村や今後の活動エリアなどを教えていただきました。植林だけではなく、手すき紙の制作やごみ処理問題への取り組み、水道の引き込み、チーズの販売等々活動も様々とのこと。お金だけを渡すのではなく、その土地の人々の生活改善を目的とし、さらにある程度軌道にのると地元もしくは企業に委託していくという取り組み方に共感を覚えました。言葉で表すのは簡単ですが、プロジェクトの意義を、その土地の人々に根気よく、理解してもらい実行してもらうことは大変なことだと思います。

ナルチャン村では、村人たちの歓迎を受け、苗畑や学校の見学、ホームステイを通して村の生活を垣間見せていただきました。残念ながら植樹の時期ではなく、苗を植える作業をほんの少し行っただけでしたので、もう少し時間をかけてお手伝いできればと思いました。

また村民との交流会では、言語の問題からか、深く話せなかったのが残念でした。たとえば、学校の10年生を新設されますが、その後の教育を受けた子供たちの行き先や人材の活用を具体的に考えているか、また、外国人がこの村に来ることは、「良いこと」だとおっしゃっていましたが、具体的に何が良いのか、悪いことはないのかなど、もう少し深く聞くことができればと思いました。ただ、情報量の違いも会話が進まなかった原因のひとつではないかと思いました。何が悪いというわけではない

のですが、そういった意味では、専門分野での指導者の必要性を感じました。

このツアーに参加し、ネパールの一部ではありますが現状を垣間見ることができました。彼らのシンプルな生活の仕方に共感し、日本でいかに多くの無駄なものに囲まれて生きているか等、考えさせられましたが、ネパールの人々のために何ができるのかは、実は、益々分からなくなっています。ネパールへ来年また行く予定ですので、それまでに、ゆっくり、じっくり何ができるのかを見極めたいと思っています。

## 2. ネパールの人々は何を望んでいるのか

S. M.



私は大学のゼミナールで発展途上国の現状や課題、そしてその課題を解決するために行われている開発を学ぶ「開発学」を学んできました。そのような勉強をして大学4年になりますが、いわゆる発展途上国にほとんど行ったことがなかったため、今回のMESに申し込みました。机上の空論を越えた現実を五感で捉えたいという思いがありました。

ネパールに到着してからは衝撃の連続でした。私は発展途上国と呼ばれる他の国にも行ったことがあります、やはりネパールには様々な課題があるように思われました。道はデコボコで整備されているとはいいがたく、信号機は機能しておらず、車の排気ガスは酷く、ずっと停電していました。ただ、それらのことは慣れてしまえば大した問題ではなく、住んでいる人びともそんなに問題視していないのではないかと思います。もっと大きな問題は経済の発展だと思います。ネパールにおける経済発展について考えたとき、「この国は果たして経済的に発展する

ことは可能なのか？」という疑問を抱かずにはいられません。ネパールは国土が山形なため、交易には適していません。たとえ何かを生産しても、それを大量に輸送する海運のような手段を用いることができません。インドなどで行われているITを用いたアウトソーシング事業を行うのであれば可能だとは思いますが、そのためには教育の充実が必要になります。ただし、ネパールには世界遺産に登録されるような観光資源が多く存在します。そのため、観光業に依存せざるをえません。

ここまでネパールの経済発展について述べてきましたが、それは今回のツアーでネパールの人々の経済発展への並々ならぬ渴望を感じたからです。

ナルチャン村での村人とのミーティングの際に、日々の生活の中で重視することは何かについて質問しました。ある男性は、日々の農業や食事を重視していると言いました。この答えは想定していた

ものであり、ごく自然な答えでした。ところが別の男性は、環境保全のプロジェクトやツーリズムを重視していると言いました。そこで、村に外国人が来ることについてどう思うかと質問をしました。するとその男性は、私たちが村に来て、交流するようなことはいいことだと言いました。交流を楽しむという側面もあるとは思いますが、発展のためのツールとしてのツーリズムへの期待が別の側面にはあると思いました。そのため最後に、村の将来像について質問したところ、日本のように発展することだと言っていました。

また、ナルチャン村でのホームステイの最後の日に私と同世代の女の子3人と話をしました。彼女たちは3人とも20歳前後で、私とは年も近く様々なことを話してくれました。彼女たちは、「ネパールは駄目で、日本は良い」ということを言っていました。ディスコが好きで、おしゃれに気を配る彼女たちは日本の若者と大差はないと感じました。ただ、置かれている状況が違うために、自分の国に憂いを感じているのだと思います。

話は前後しますが、ゴレパニヘトレッキングをしている途中に、他の建物にまぎれて、教会が建っていました。見た目は他の建物と変わらないのですが、その入り口のようなところには十字架がありました。同行していたナル・バハドゥール氏によるとそれはUnited Missionsの建てた教会だということでした。United Missionsがどのようなことをしているのかを具体的には知りませんが、援助を持ってくると同時に、ネパールの人々のキリスト教への改宗をすすめているそうです。キリスト教徒はまだ少数だそうですが、人々のヒンドゥー教からキリスト教への改宗を着々とすすめているそうです。援助と改宗を抱き合わせにした援助のあり方には少々の疑問を感じますが、村人の視点に立てば、自らの文化を捨ててまでも援助が欲しいという切実な現実があるのかもしれない。

いかにネパールの人々が経済的な発展を渴望しているかについて以上3つの例を挙げました。今回の旅で私は日本人として、どちらか言えば援助する側の人間として、ネパールの人々が何を望んでいるのかについて自分なりに考えてみました。ネパールの人々は経済発展を望んでいるというのは感じましたが、それを真に受けて援助をするというのはどうかとも思います。人々の望みを援助の中にいかに組み入れていくのか。今の私には結論が出せない難しい問題です。

## V. 写真



フジホテルにてダルバートを食べる



ヒマラヤの夜明け（プンヒルにて）



トレッキング・ロッジにて休憩



満開のシャクナゲの前で



トレッキングはつづく



ナルチャン村の苗畑に到着



苗木の世話をする



“天国の畑”を行く（レク村：ナルチャン上村）



“天国の丘”（背後はアンナプルナ・サウス：7219m）



“天国の丘”にて休憩



ナルチャン村の皆さんとミーティング



練習した“レッスランフィリフィ”のダンスを披露



ブンヒルからダウラギリをのぞむ（朝日と天地が織りなす一大スペクタクルが見られる）

## **第16回 山岳エコロジースクール 報告書**

発行日 2009年11月3日

編集・発行者 特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 3-5-7 シグマロイヤルハイツ 403

E-mail: [ihcjpn@ybb.ne.jp](mailto:ihcjpn@ybb.ne.jp) TEL/FAX:03-5350-8458 <http://www.ihc-japan.org/>